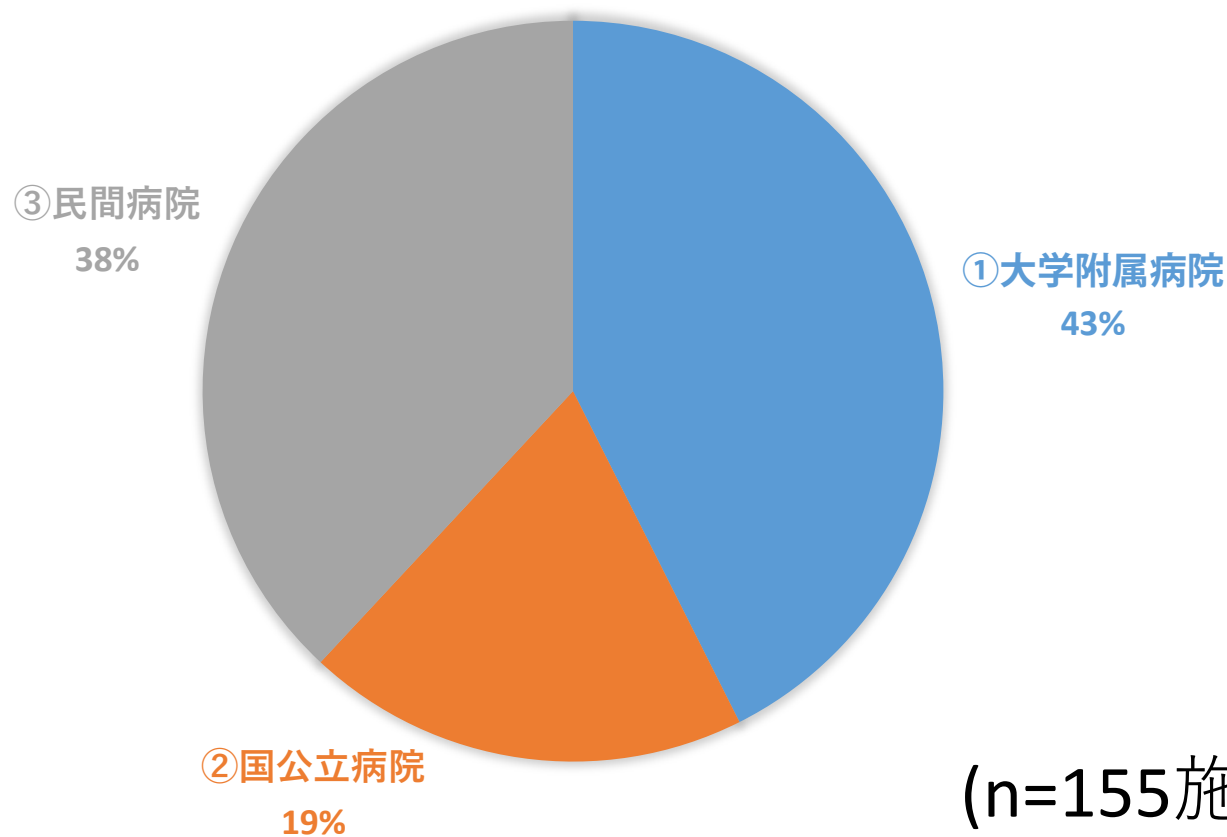


本邦におけるCOVID-19感染症による 血管外科疾患および手術への影響 に関するアンケート

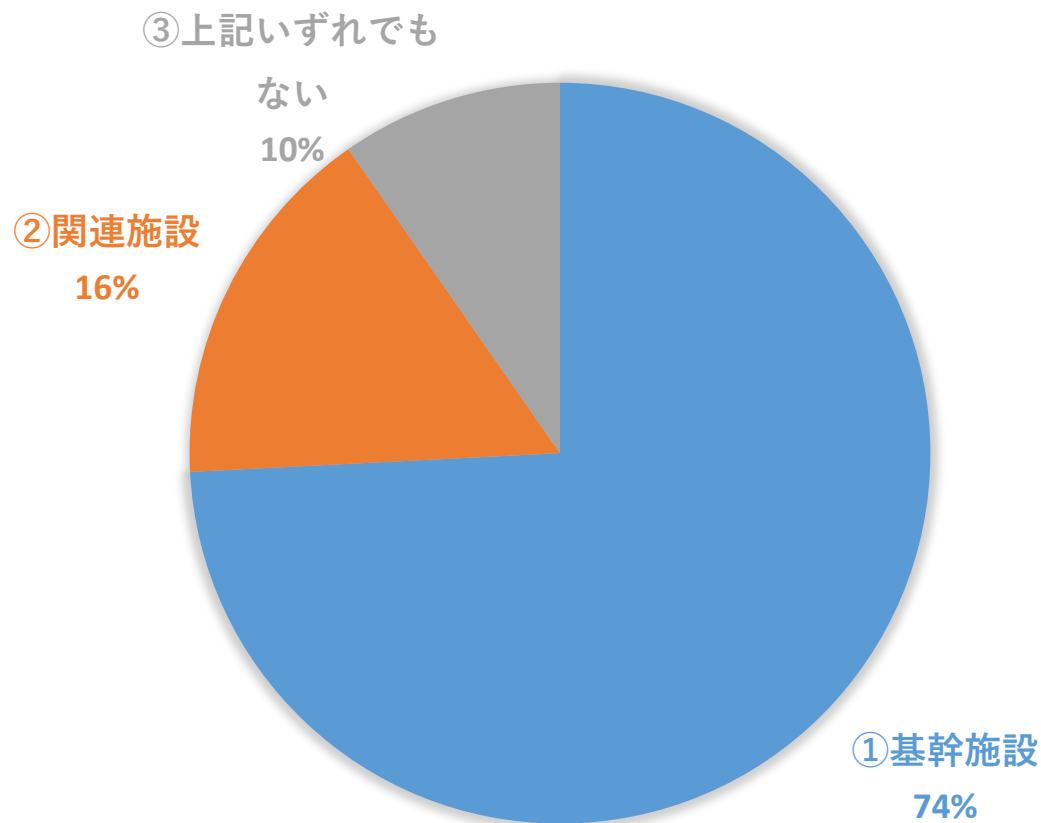
特定非営利活動法人日本血管外科学会
災害・危機管理対策委員会（コロナ対策委員会）

回答施設の属性1



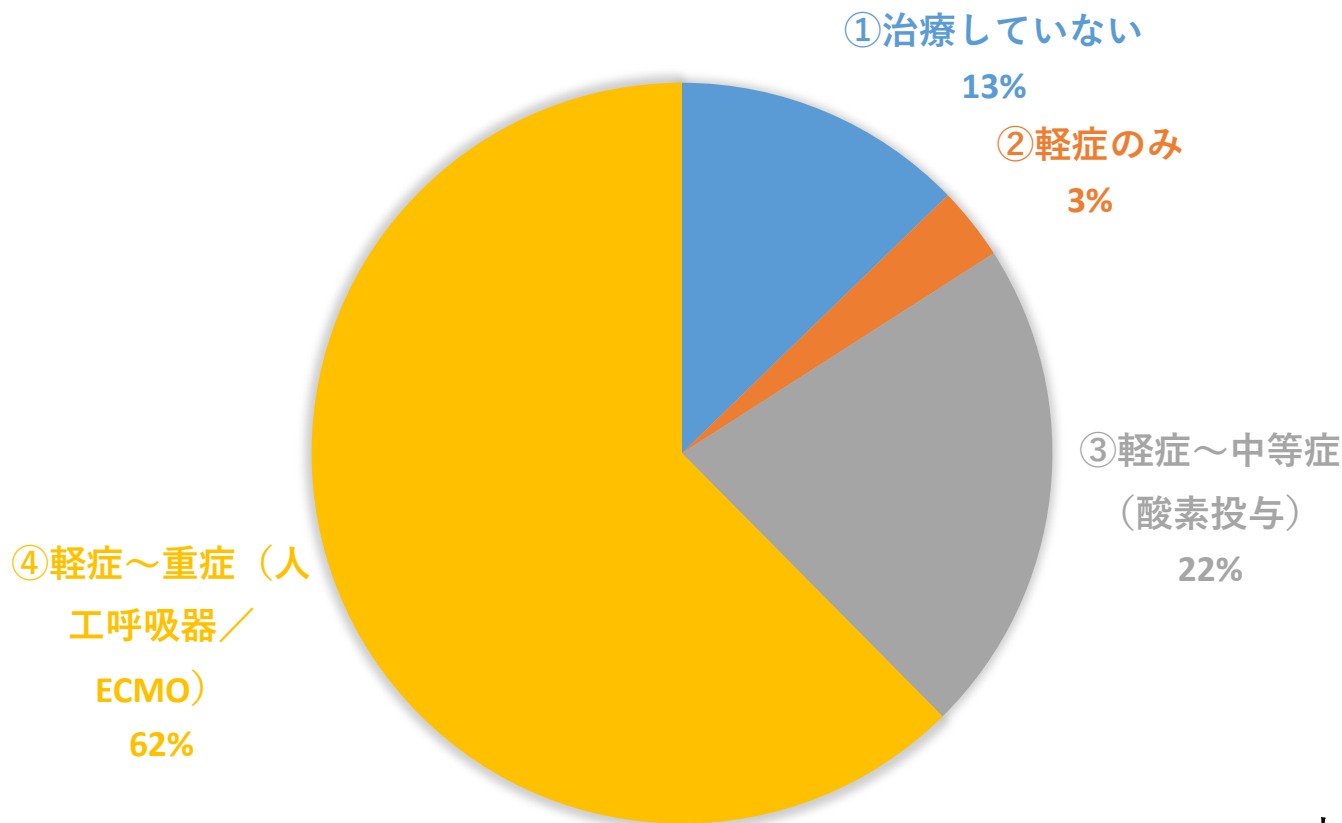
(n=155施設)

回答施設の属性2



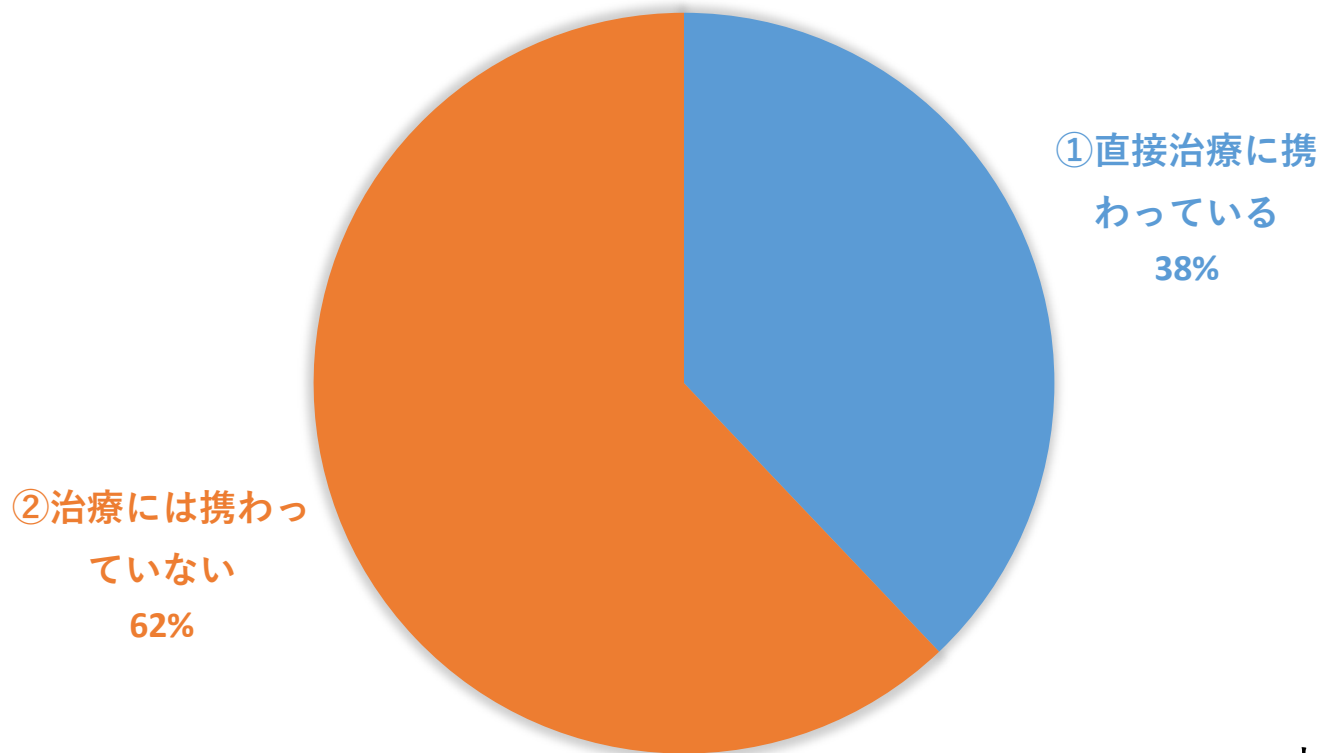
(n=155施設)

回答施設でのCOVID-19陽性患者の 入院治療状況（2020年時点）



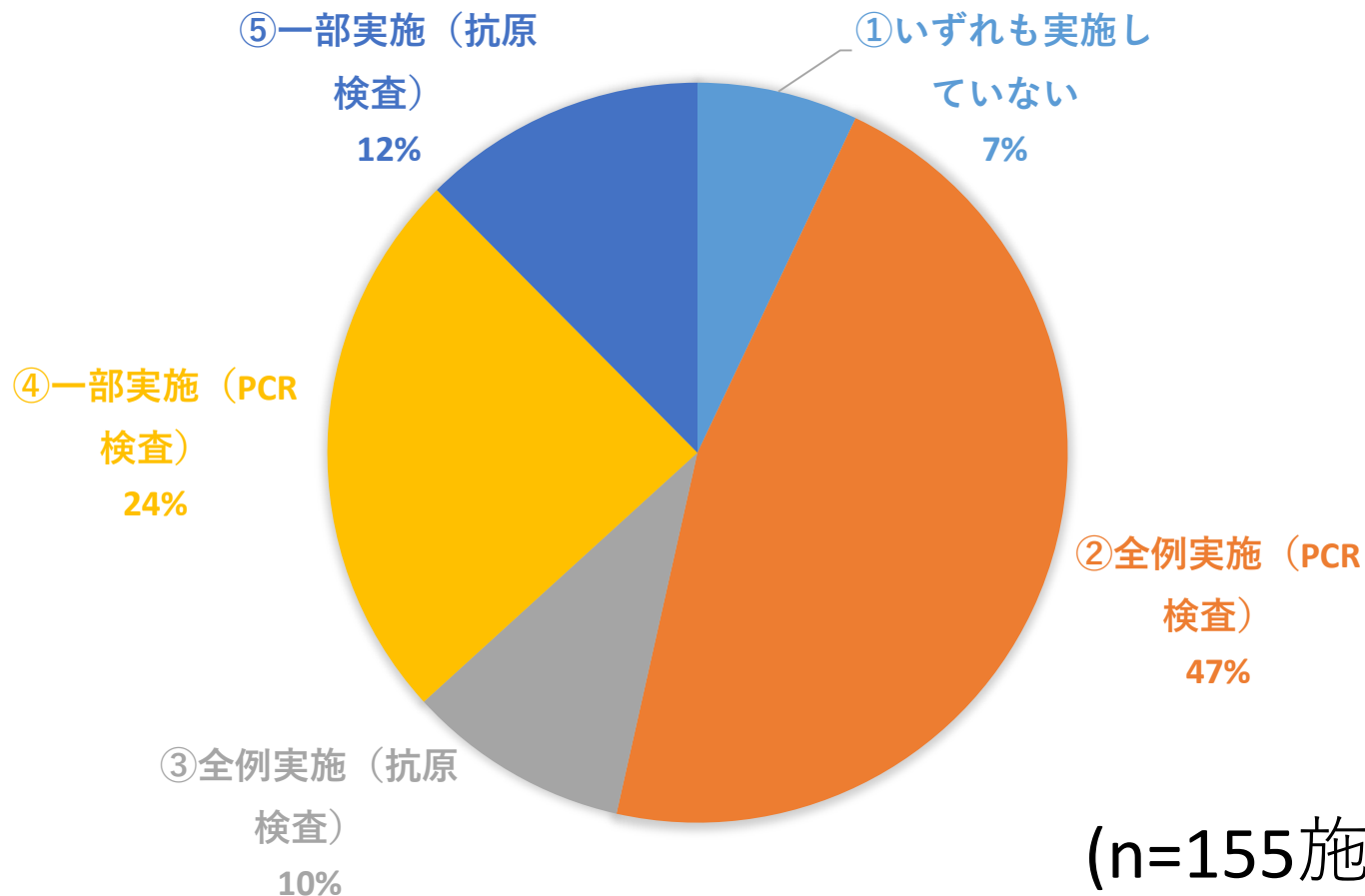
(n=155施設)

診療科所属医師におけるCOVID-19陽性患者の治療への関わり（2020年時点）



(n=155施設)

術前COVID-19のPCR検査または抗原検査実施状況（2020年時点）



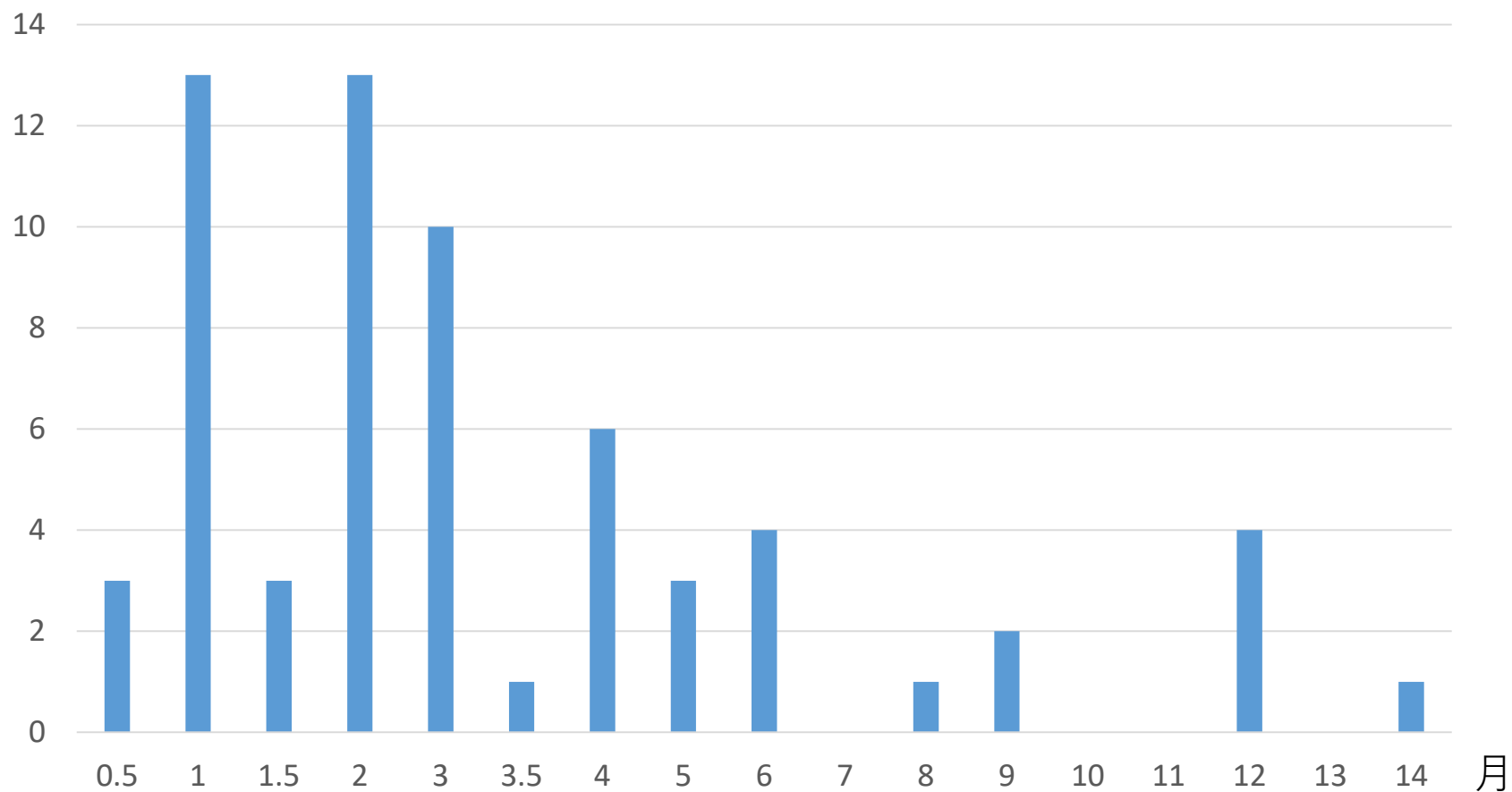
回答施設での手術制限状況 (2020年時点)



(n=155施設)

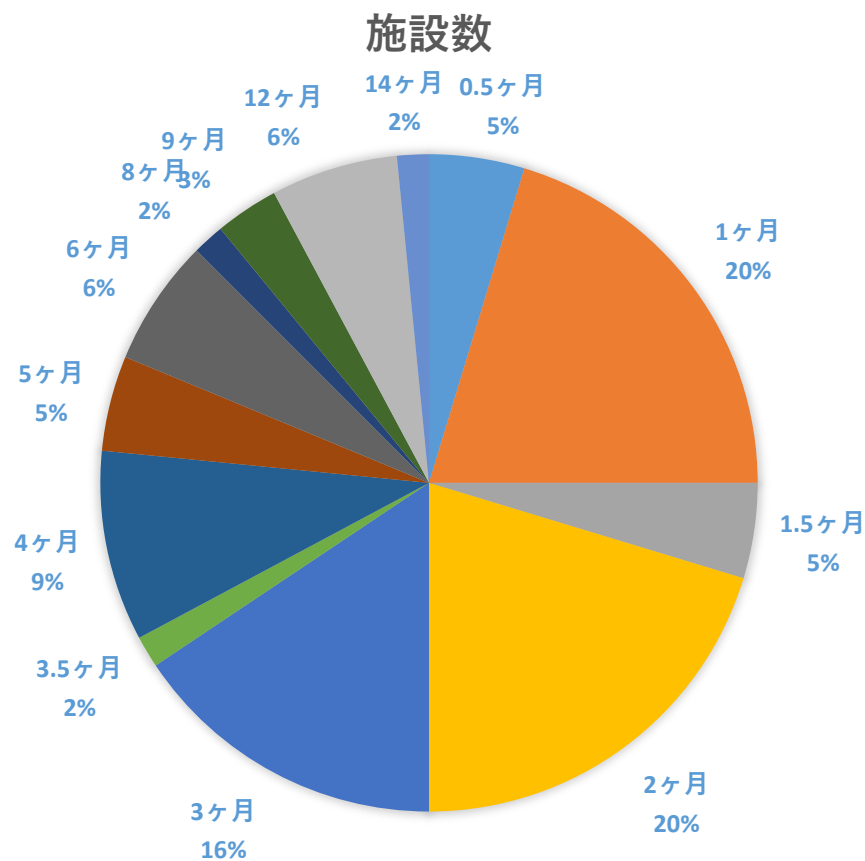
手術を制限した期間（月）

施設数



(n=71施設)

手術を制限した期間（月）



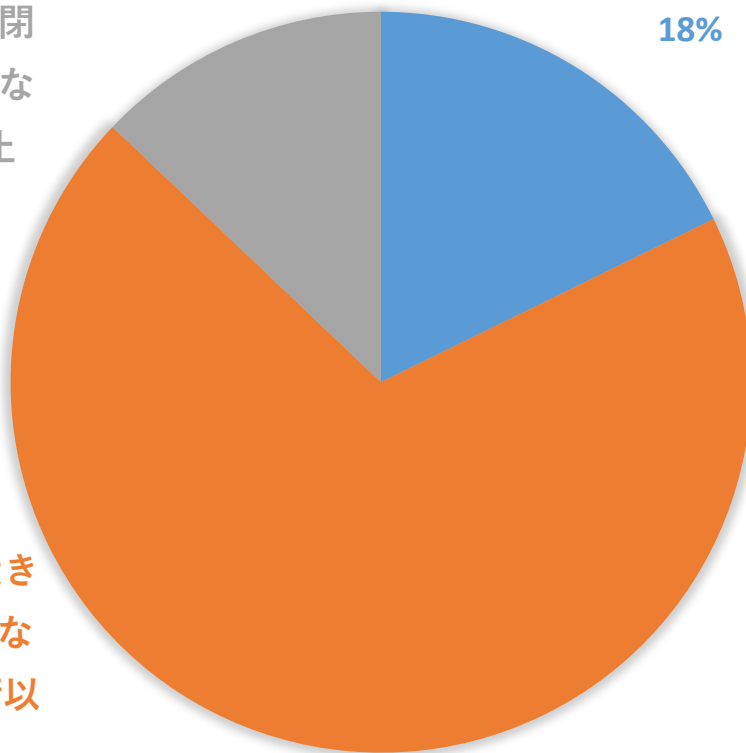
(n=71施設)

手術制限の内容

③一部中止：緊急手術（急性動脈閉塞や動脈瘤破裂など）以外は中止
13%

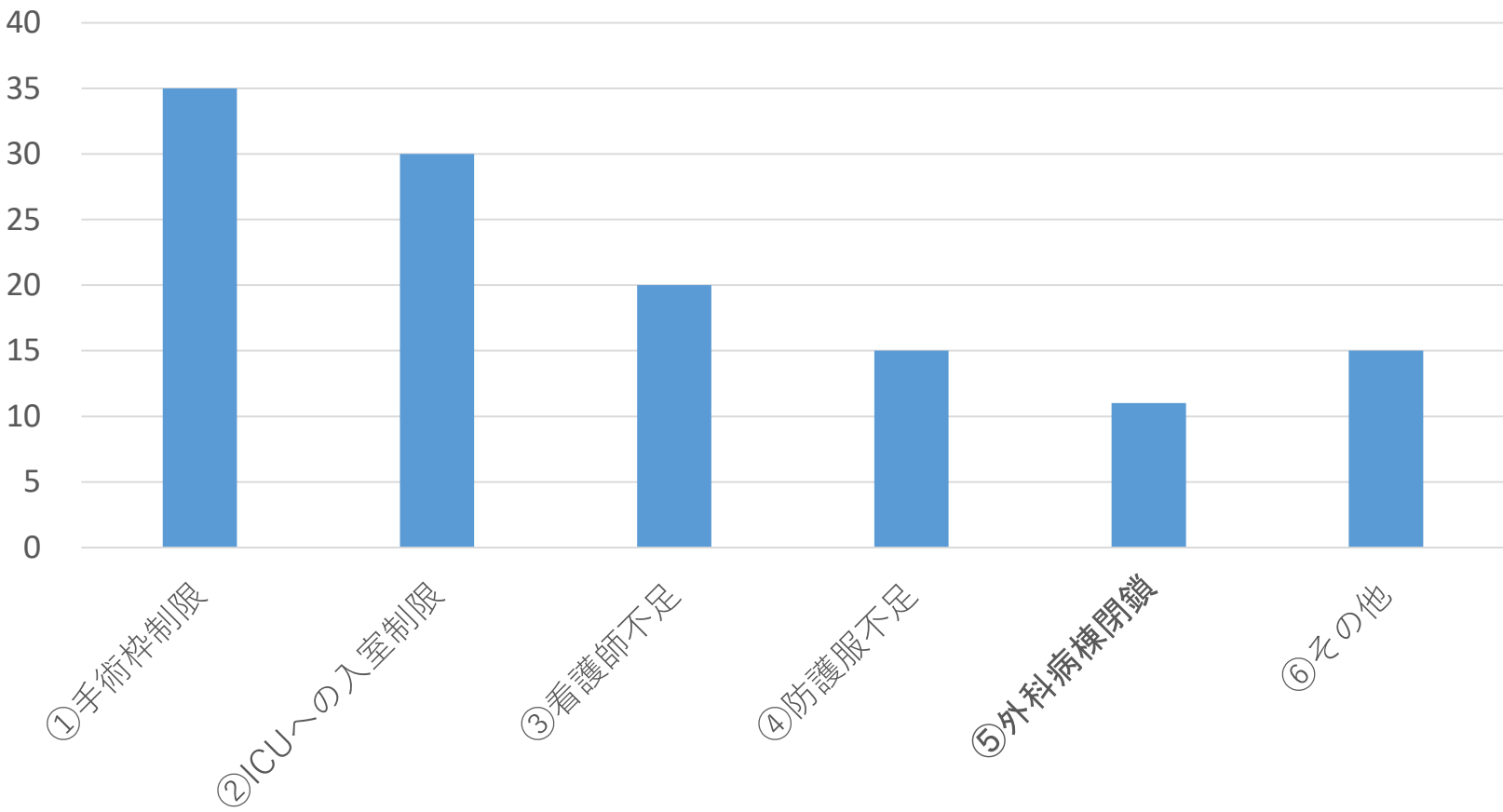
②一部中止：大きな動脈瘤やCLTIなどの準緊急手術以外は中止
69%

①全例中止
18%



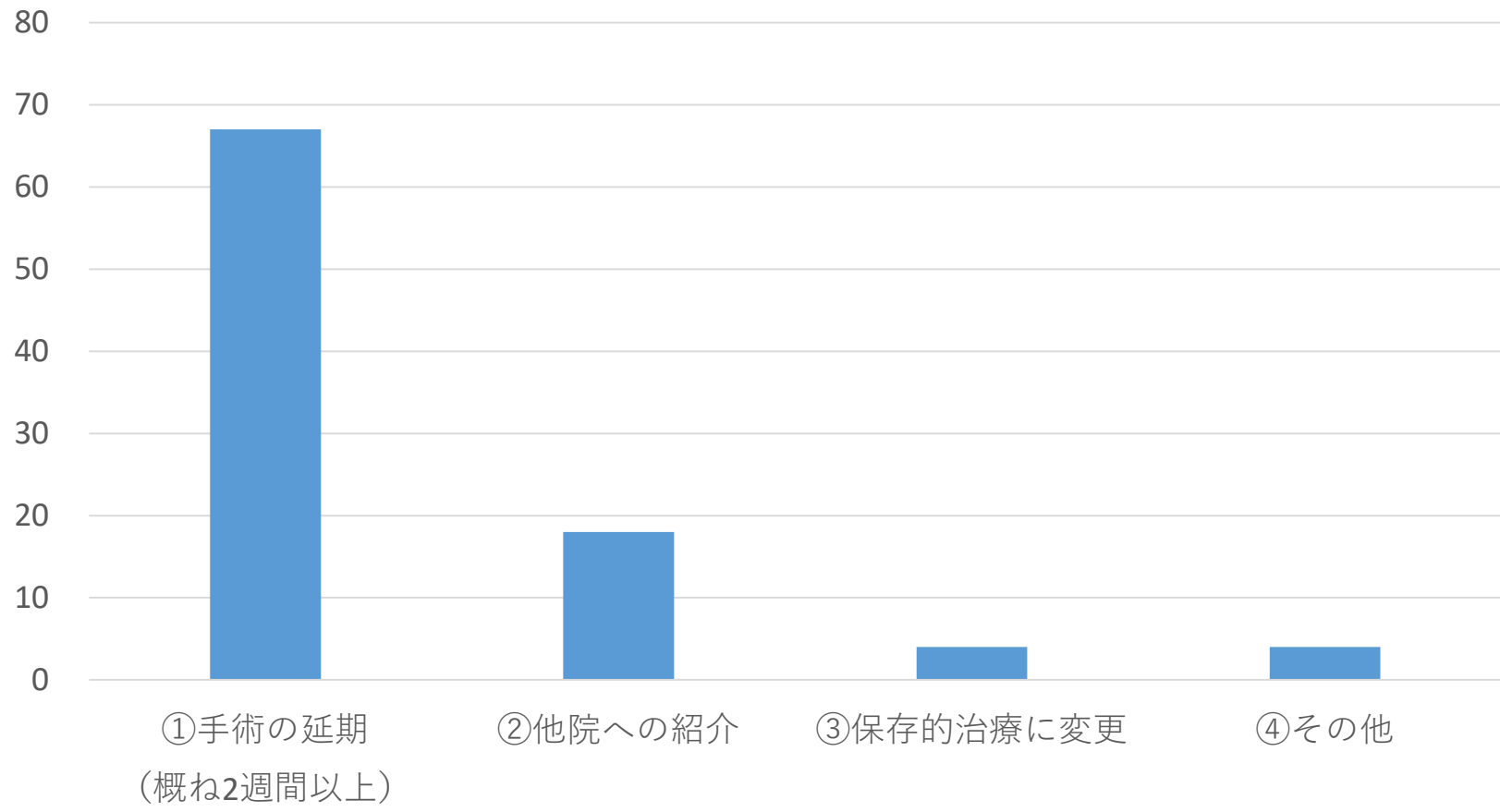
(n=71施設)

手術を制限した理由（複数回答）



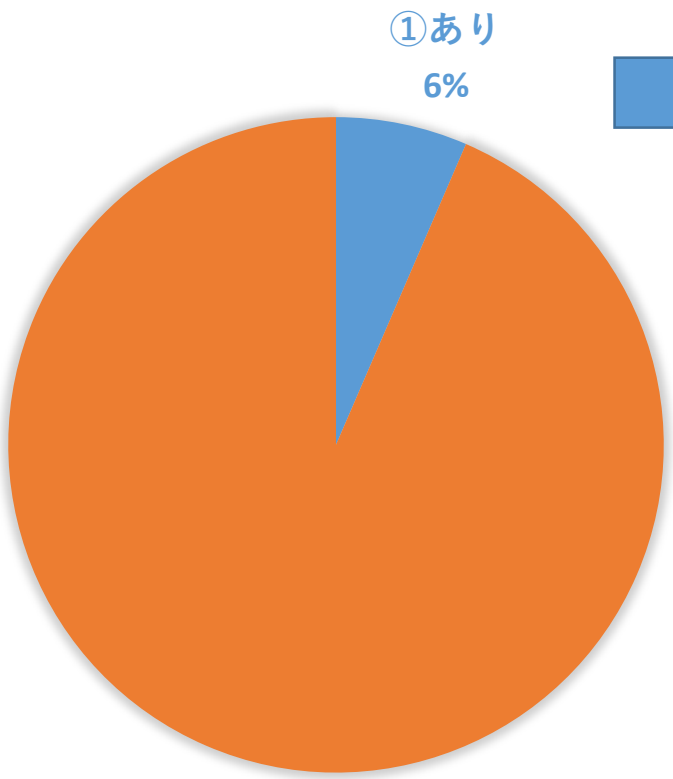
(n=71施設)

手術制限に対する対策（複数回答）



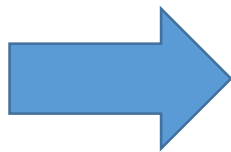
(n=71施設)

COVID-19陽性症例の手術経験の有無 (術後陽性が判明した症例を含む)



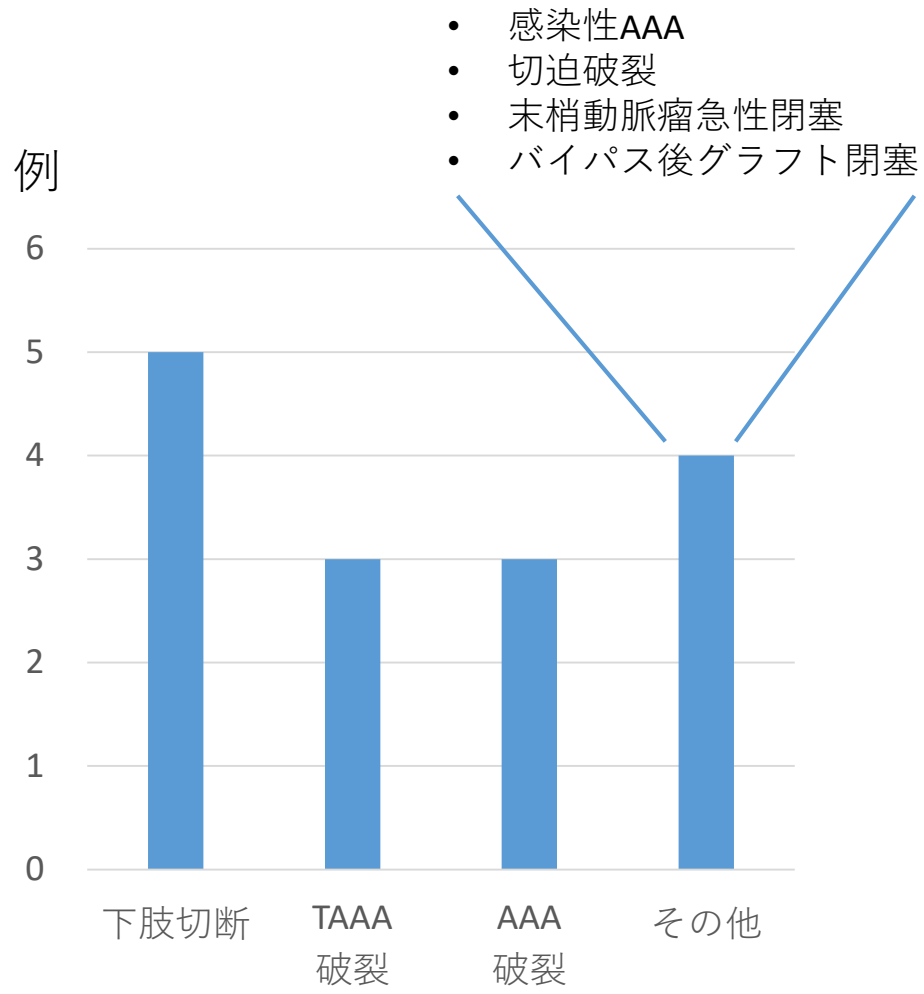
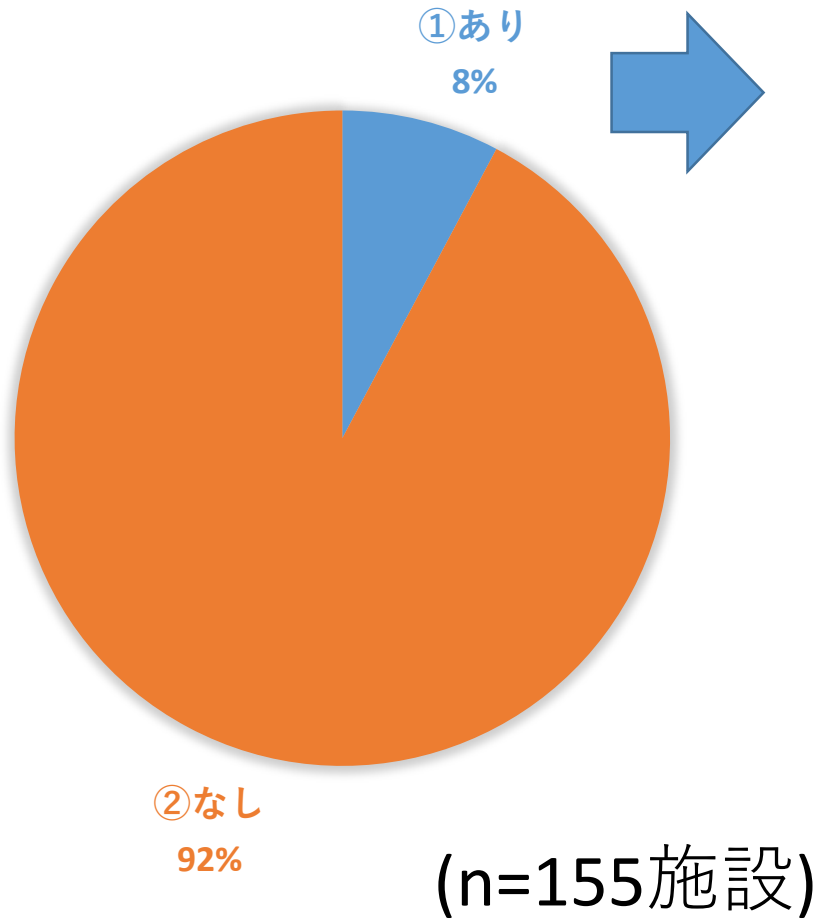
②なし
94%

(n=155施設)



- 全弓部置換 1
- 仮性瘤 2
- 急性解離 1
- CLTIに対するEVT 1
- CABG 1
- EVAR 1
- TEVAR 1
- ECMO抜去術 1
- 足部デブリードマン 1

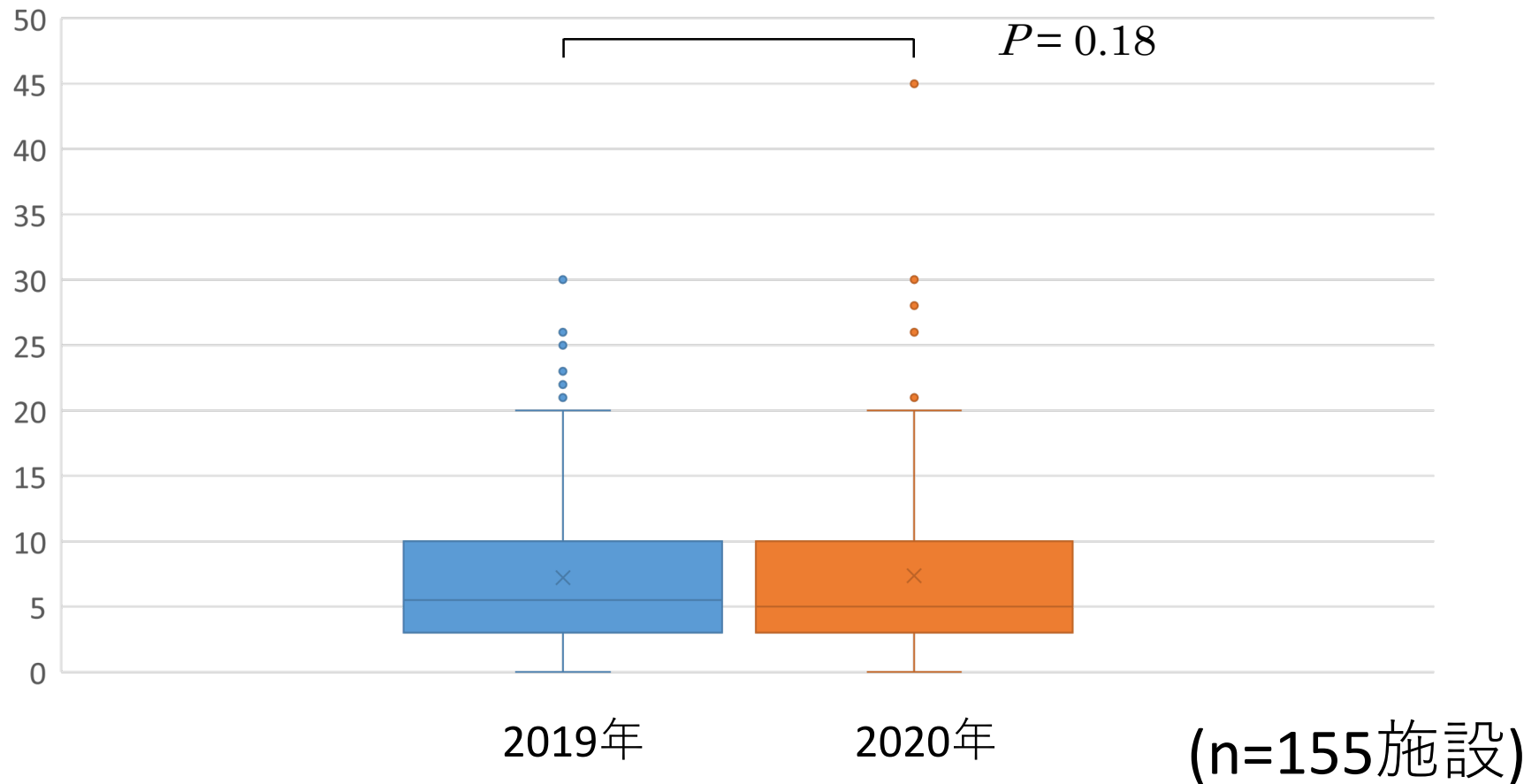
COVID-19蔓延により手術を延期したために重篤な転帰に至った症例の経験



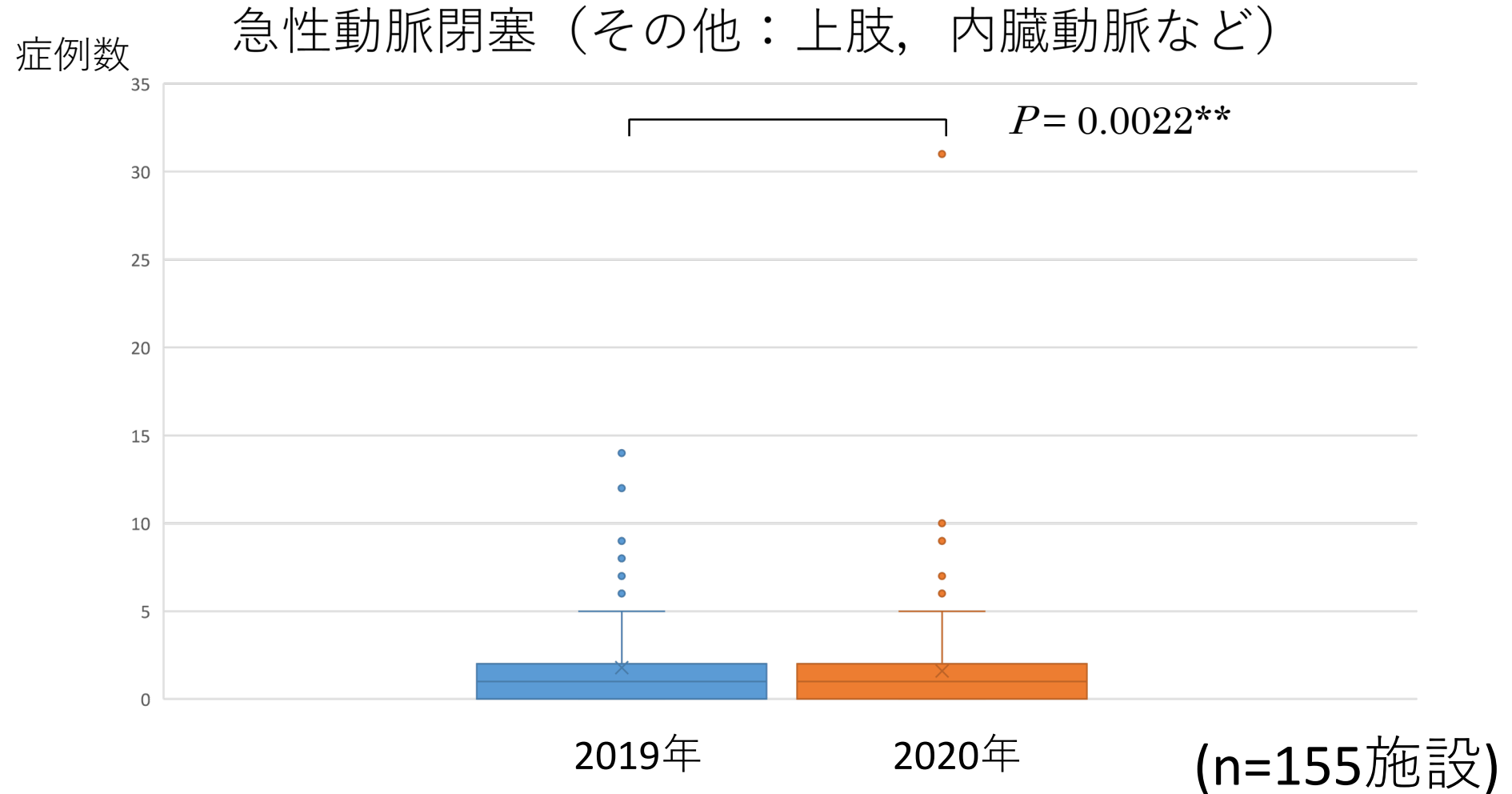
取り扱い症例数（非手術例を含む）

症例数

急性下肢動脈閉塞



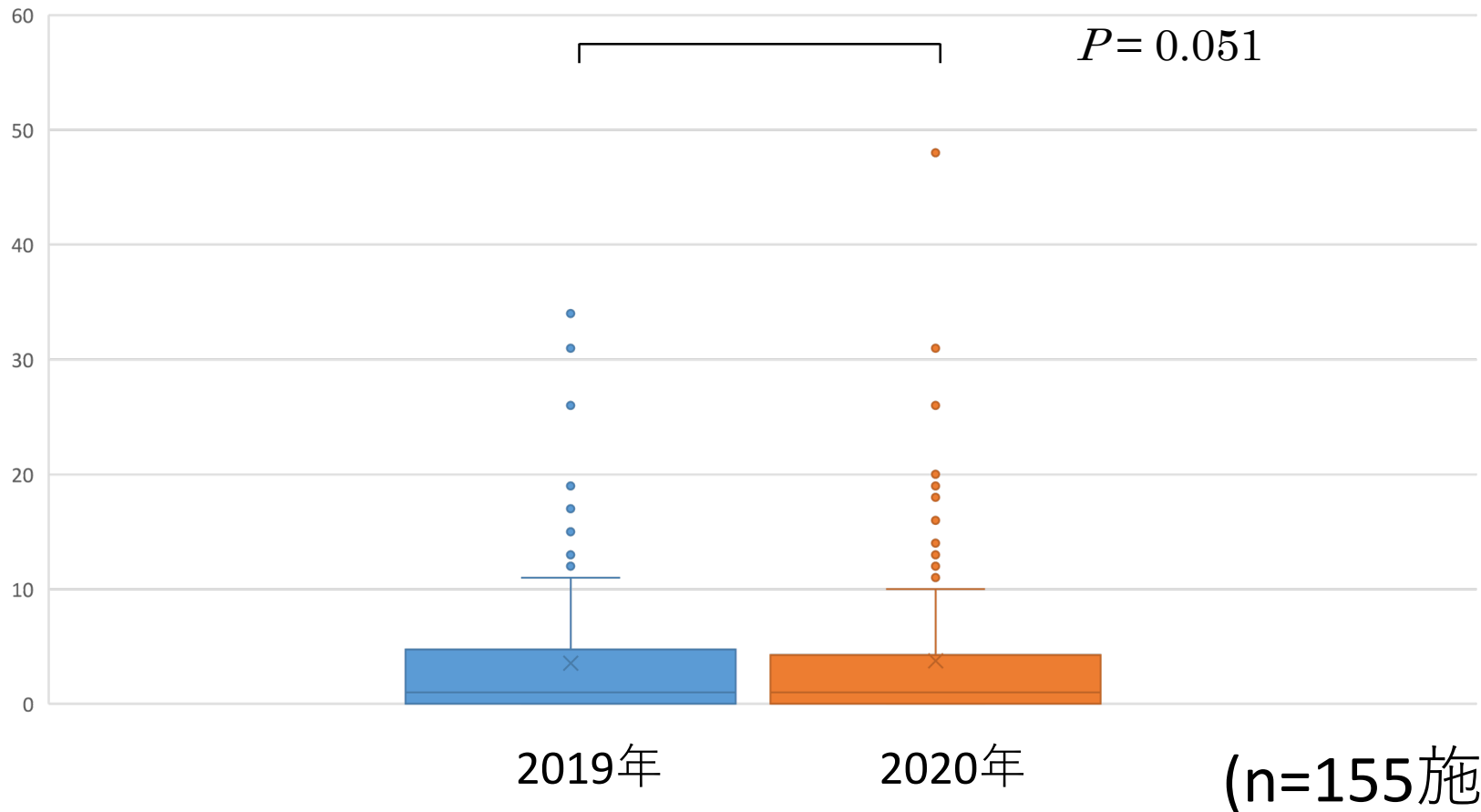
取り扱い症例数（非手術例を含む）



取り扱い症例数（非手術例を含む）

症例数

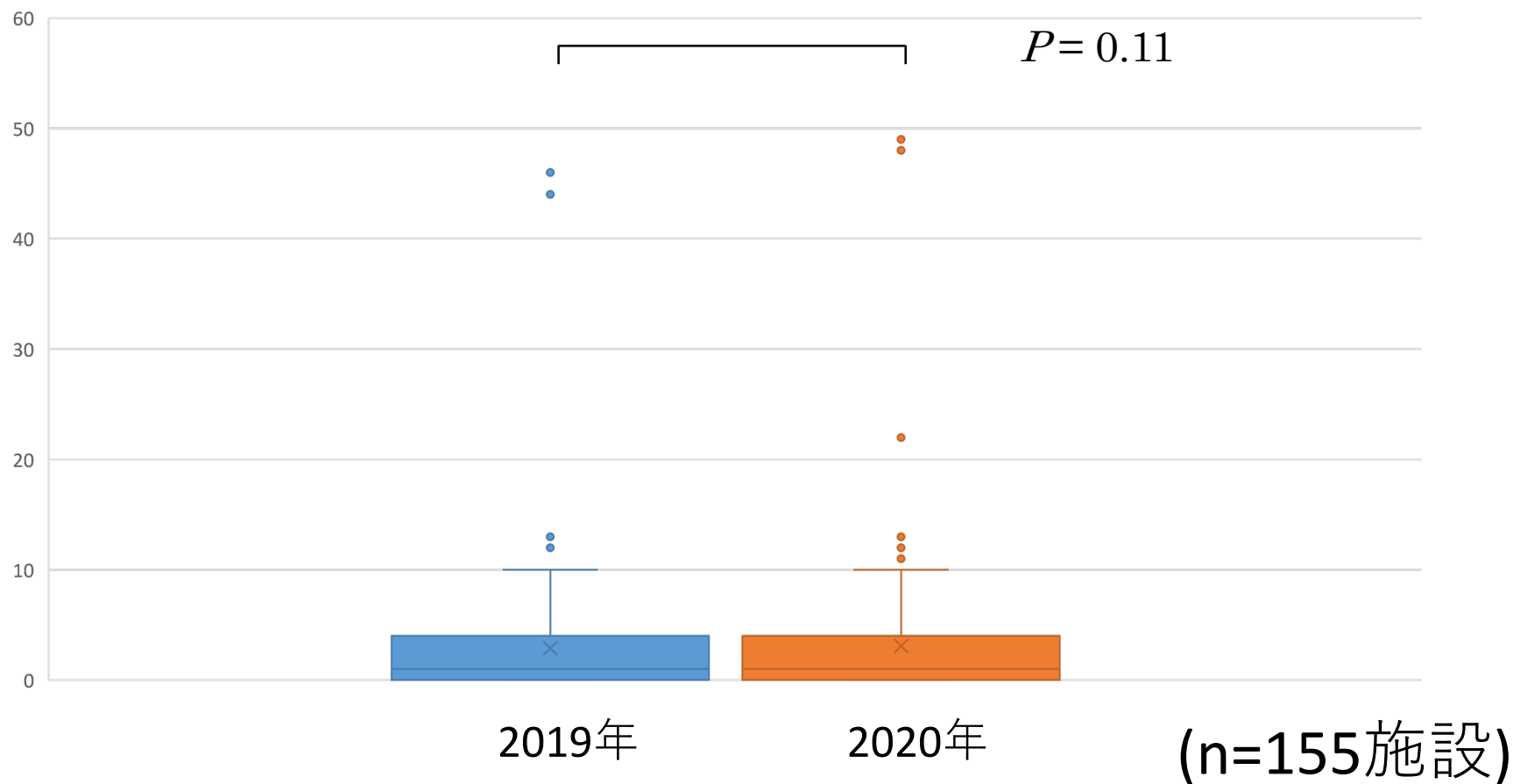
下肢切断（下腿または大腿切断）



取り扱い症例数（非手術例を含む）

症例数

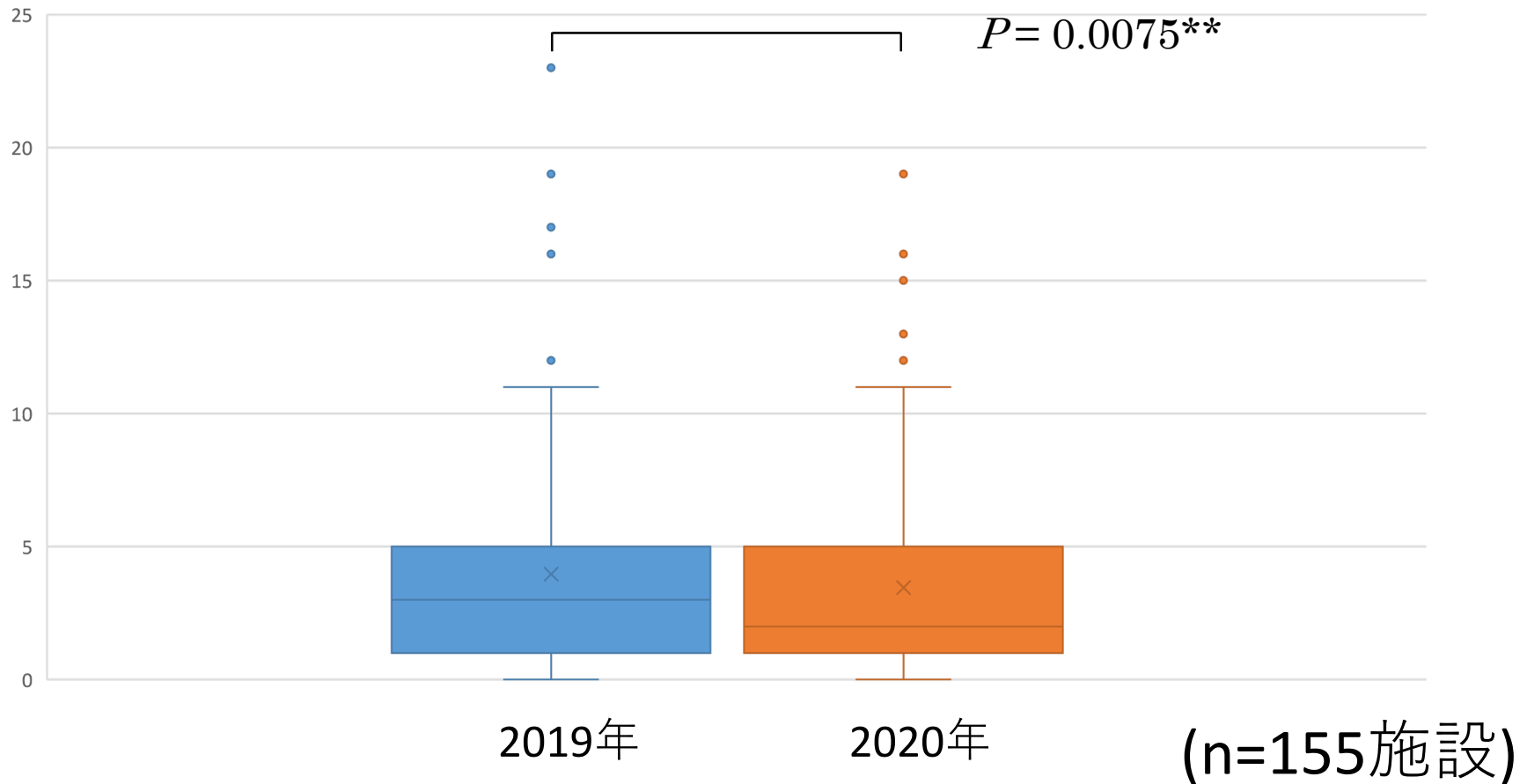
胸部大動脈瘤破裂



取り扱い症例数（非手術例を含む）

症例数

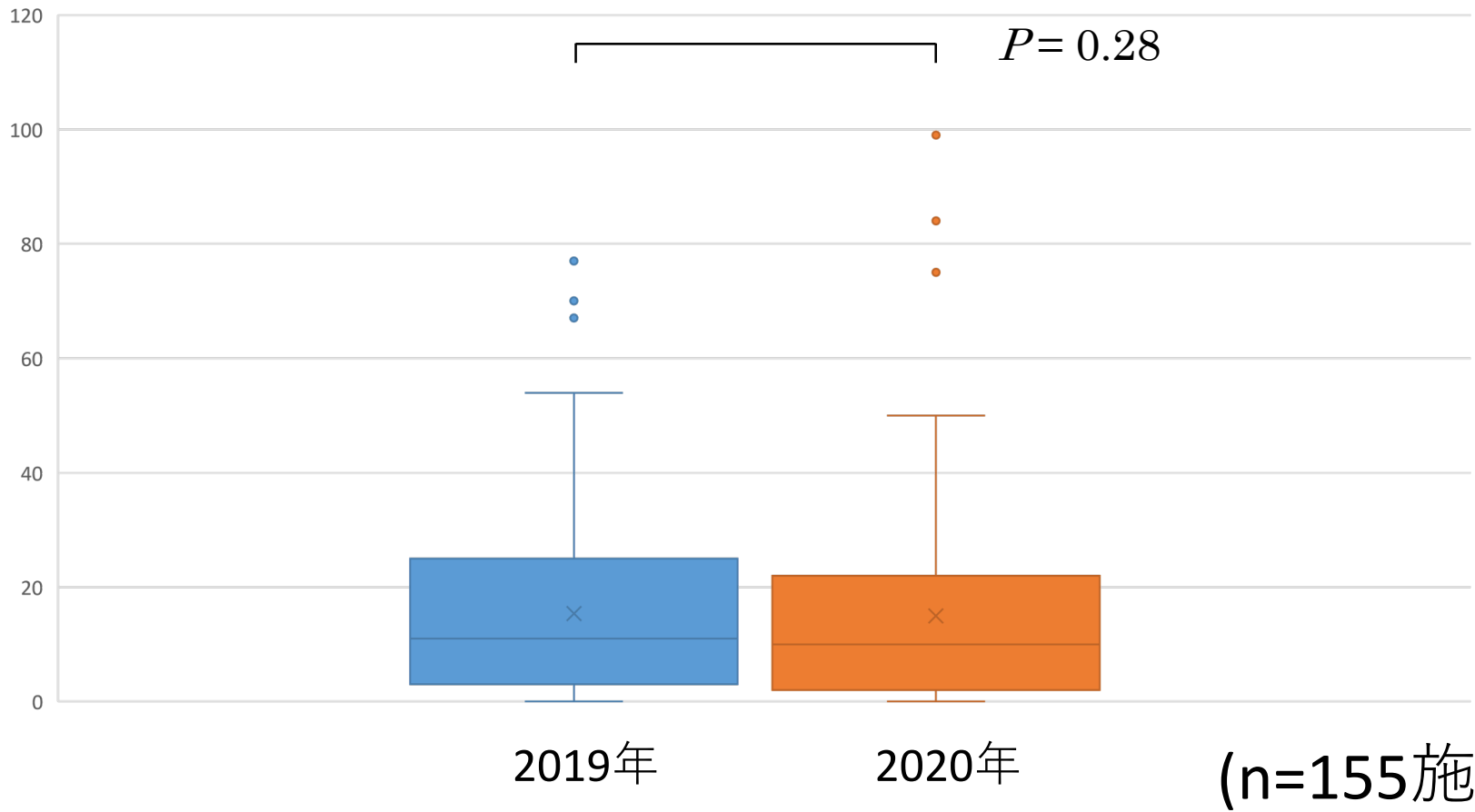
腹部大動脈瘤破裂



手術症例数

症例数

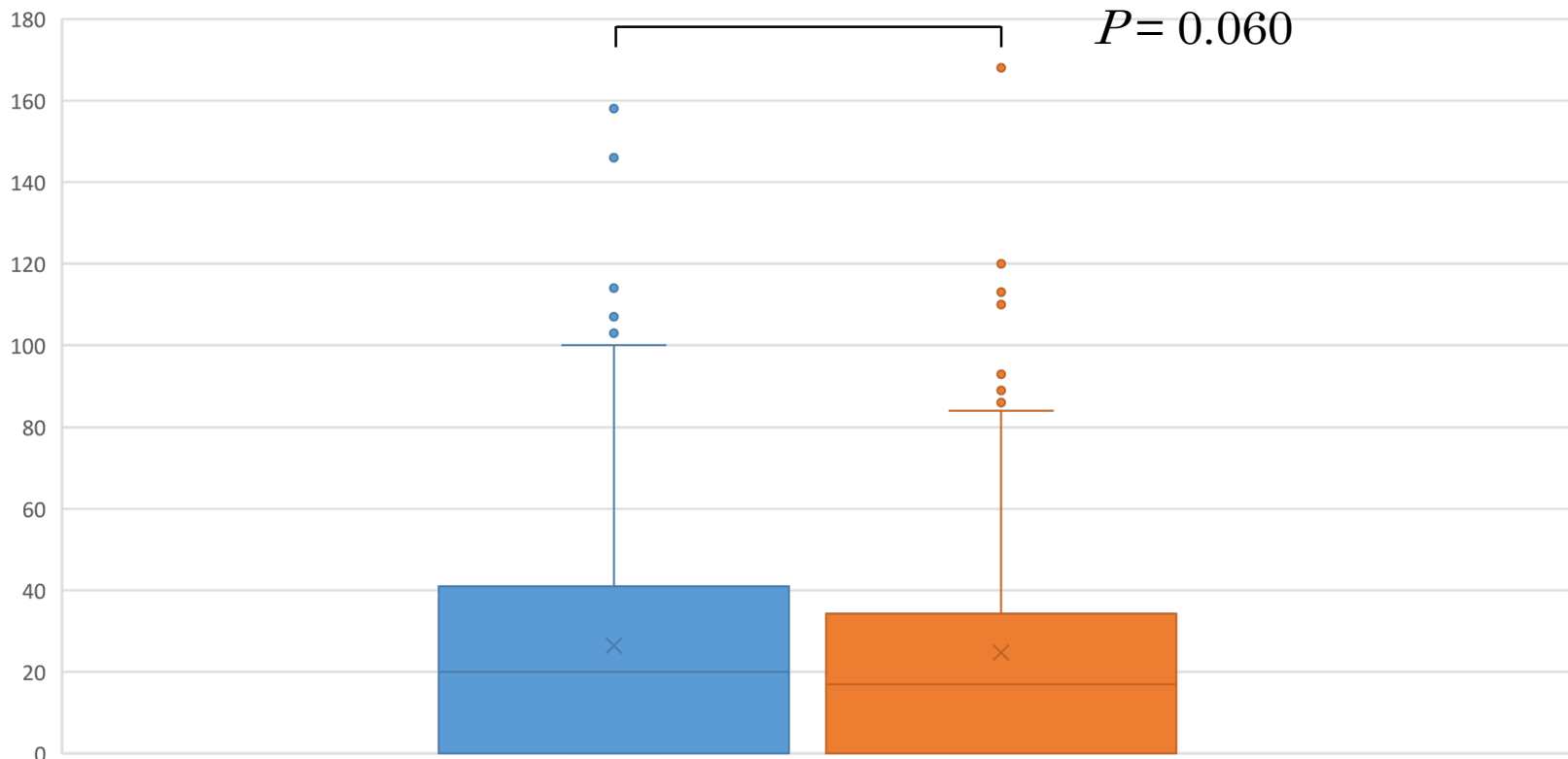
胸部大動脈瘤 (TEVAR)



手術症例数

症例数

胸部大動脈瘤 (open)



2019年

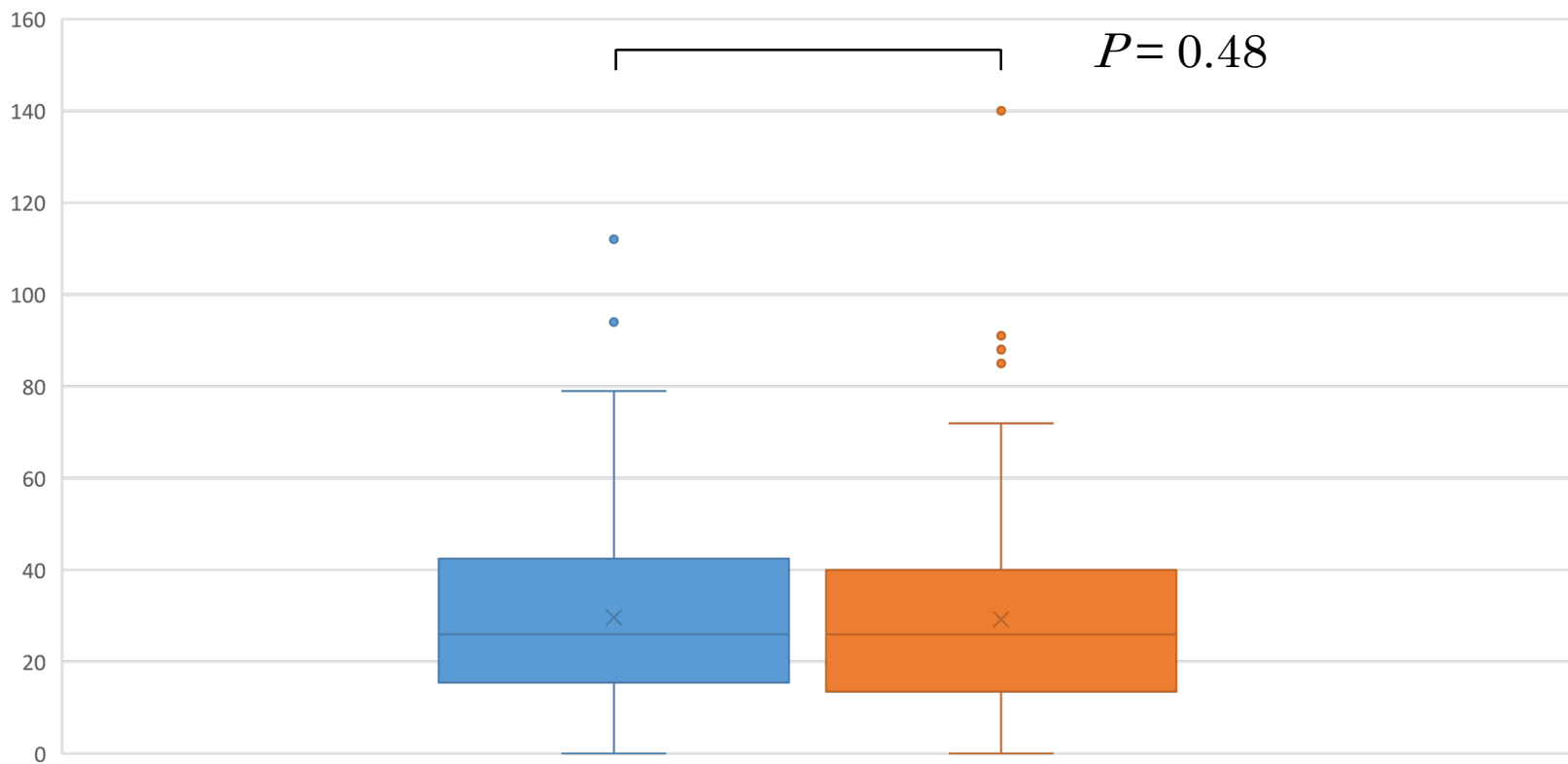
2020年

(n=155施設)

手術症例数

症例数

腹部大動脈瘤 (EVAR)



2019年

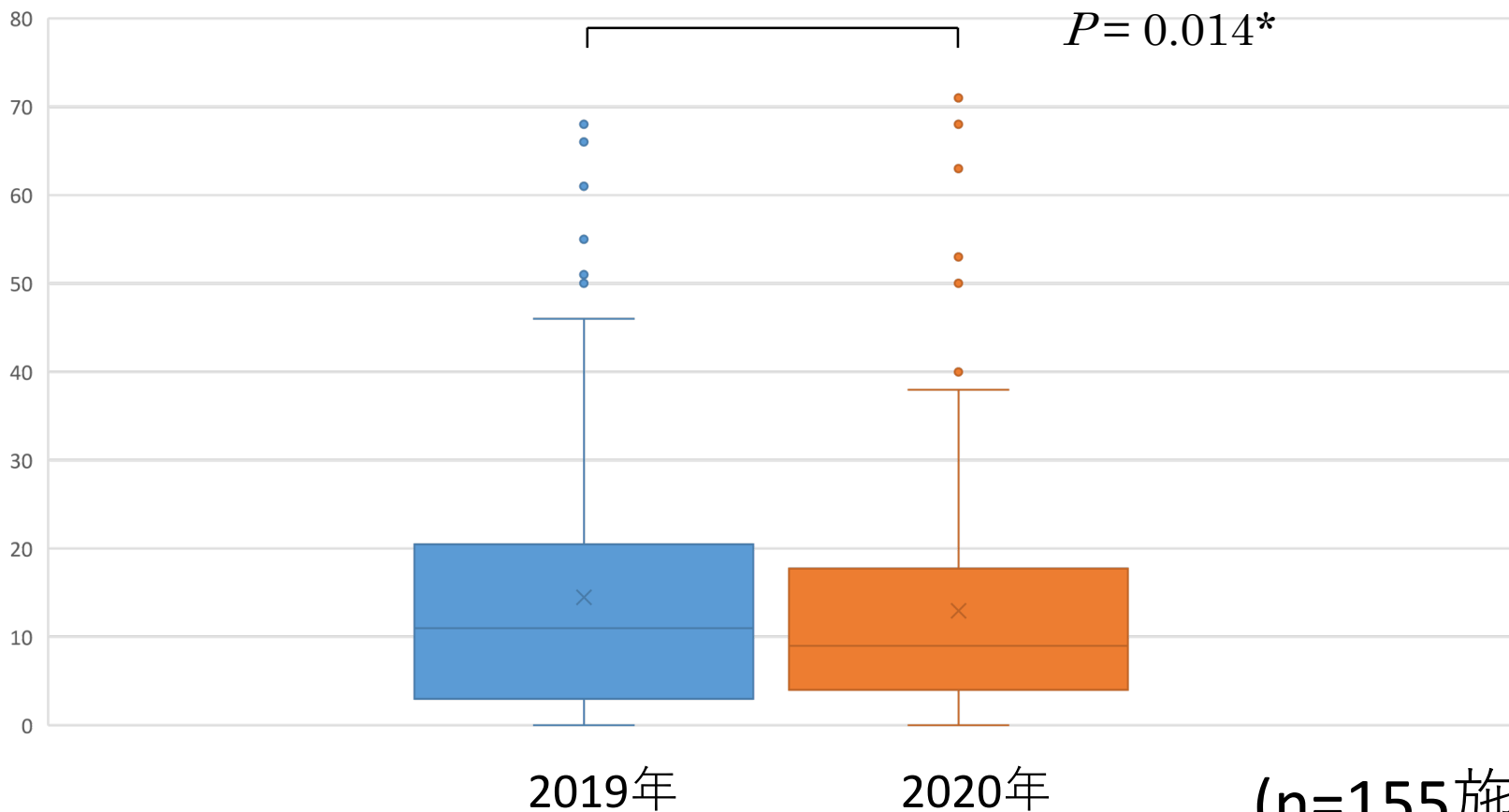
2020年

(n=155施設)

手術症例数

症例数

腹部大動脈瘤 (open)

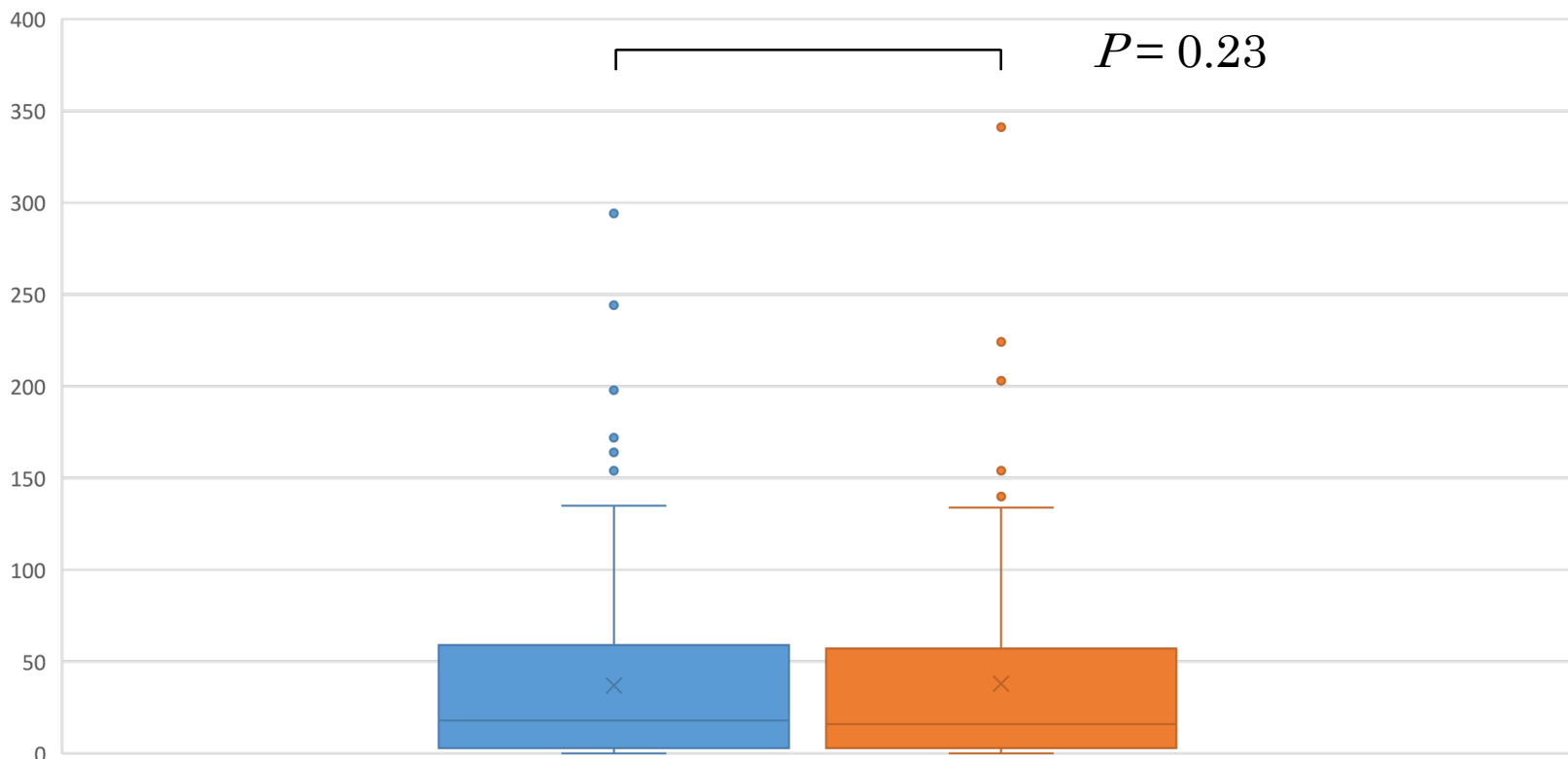


(n=155施設)

手術症例数

症例数

末梢動脈疾患 (EVT)



2019年

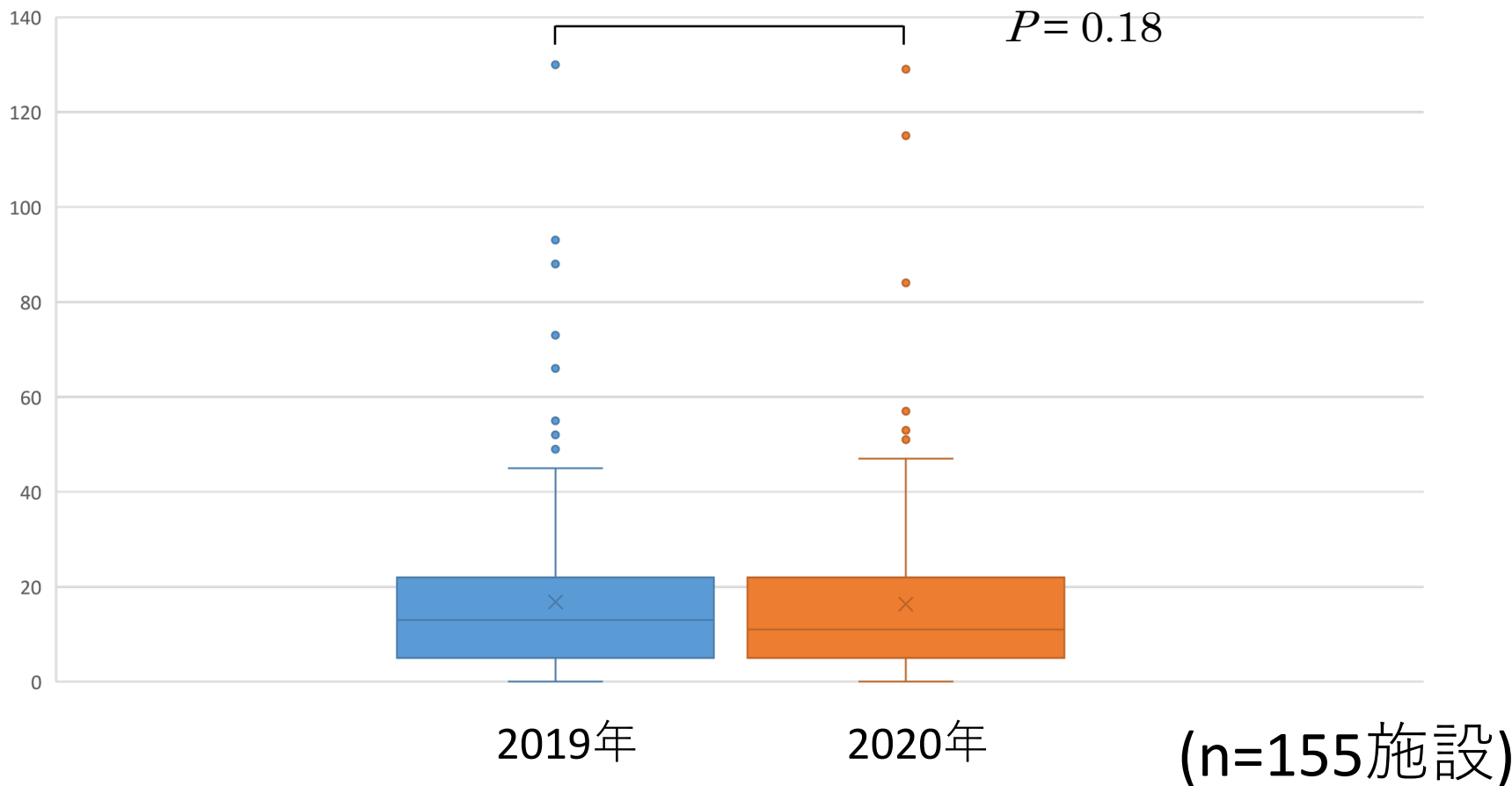
2020年

(n=155施設)

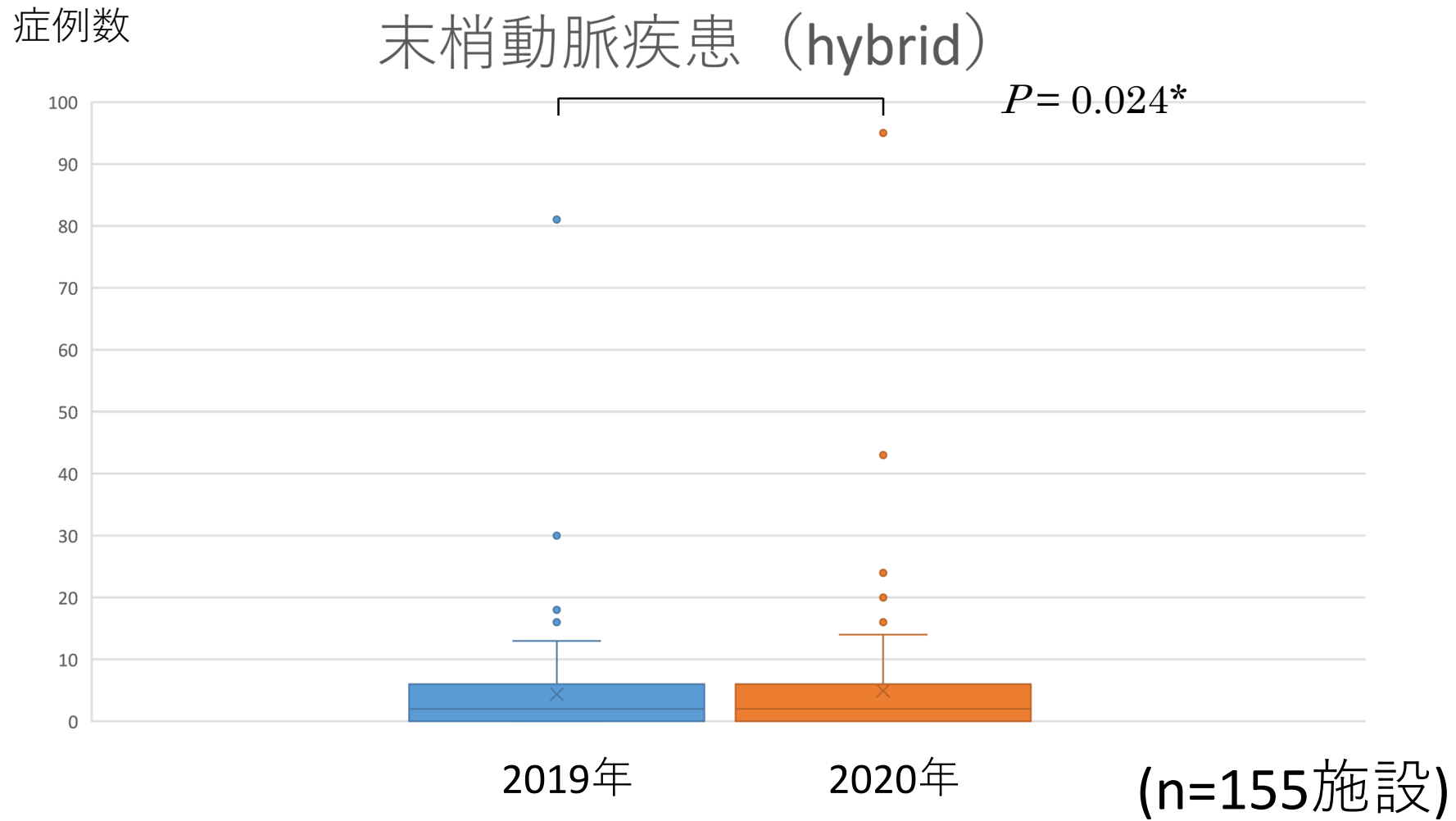
手術症例数

症例数

末梢動脈疾患 (bypass, TEA)



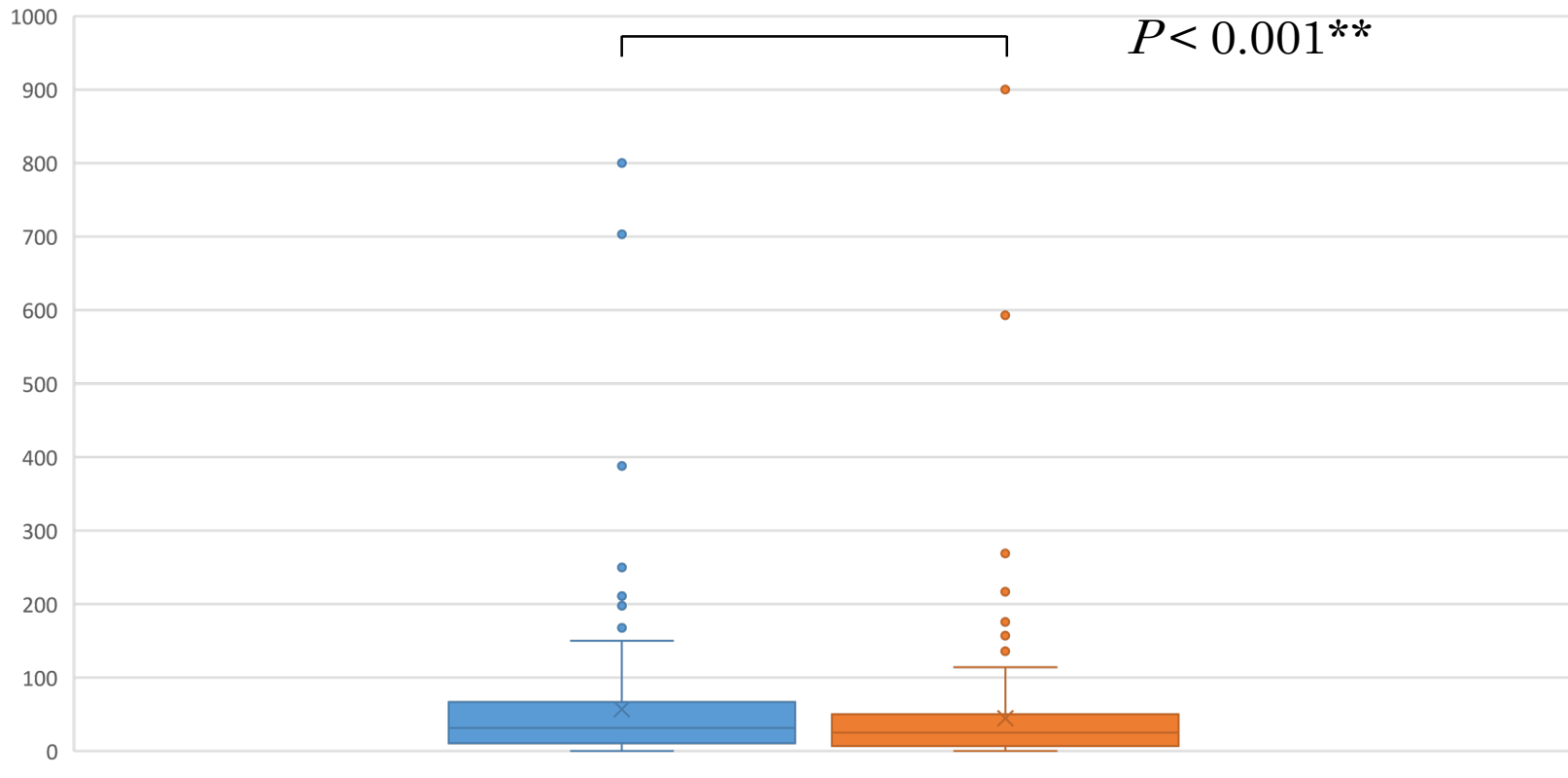
手術症例数



手術症例数

症例数

下肢静脈瘤



2019年

2020年

(n=155施設)

まとめ

- 282施設中、155施設よりご回答をいただいた。
(回答率 55%)
- 回答施設の約3/4が基幹施設であった。
- 6割以上の施設で、COVID-19感染重症者まで受け入れていた。
- 約4割の施設で（心臓）血管外科医がCOVID-19陽性患者の治療に関わっていた。
- 約6割の施設で、全例に術前COVID-19のPCR検査または抗原検査が行われていた。

まとめ

- 約半数の施設で、手術制限が行われていた。
- 上記の内、3ヶ月間の手術制限期間が約2/3であった。
- 上記の内、一部中止（大きな動脈瘤やCLTIなどの準緊急手術以外は中止）が約7割であった。
- 手術制限の理由は、手術枠制限、ICU入室制限が多かった。
- 手術制限に対する対策は、手術の延期（概ね2週間以上）が多かった。

まとめ

- 10施設（6%）で、COVID-19陽性症例の手術経験があった。
- 12施設（8%）で、COVID-19蔓延により手術を延期したために重篤な転帰に至った症例の経験があった。
- 2019年と比較すると、2020年では、
 - 急性動脈閉塞（その他：上肢、内臓動脈など）の取り扱い症例が減少していた。
 - 下肢切断は増加傾向であった。
 - AAA破裂の取り扱い症例が減少していた。
 - AAA（open）の手術症例が減少していた。
 - 末梢動脈疾患（hybrid）の手術症例が増加していた。
 - 下肢静脈瘤手術症例が減少していた。